

# Environmental Report 2014



## 環境活動レポート 2014

2013年1月～2013年12月



株式会社丸由製作所

〈発行：2014年3月31日〉



エコアクション21  
認証:登録番号0003284



# 会社の概要

組織の概要と対象範囲(2014年1月6日現在)

## 1. 事業者名称

株式会社丸由製作所

## 2. 代表者名

代表取締役社長 澤田典希

## 3. 事業所所在地

〒467-0853

愛知県名古屋市瑞穂区内浜町19番17号

## 4. 環境管理責任者及び担当者

EA21推進委員長 代表取締役社長 澤田典希

EA21推進副委員長 代表取締役専務 澤田匡希

環境管理責任者 AKS委員会 委員長 花田貴規

連絡先 電話 052-821-7777 FAX 052-821-7779

## 5. 事業内容

各種自動化装置(自動車、電池、半導体、薬品、部品)の  
システム開発・設計・製作・施工及び技術サービス

## 6. 事業規模(2013年度)

製品生産量 778台

売上高 735百万円

従業員 39人

床面積 777.5㎡

## 7. 認証・登録対象範囲

対象組織：全社・全組織

対象活動：前記、事業内容と同じ

# 環境方針

## 環境理念

株式会社丸由製作所は、環境保全を事業経営の最重要課題のひとつとして位置づけ、事業活動のあらゆる面で環境への負荷低減に努めると共に、開発提案企業として、高度な専用機・設計・製作・画像処理システムを通じて環境保全に配慮した製品、部品を提供することにより、より良い環境づくりに貢献します。

## 環境活動方針

当社は、名古屋市瑞穂区内浜町内で、主として自動車関連部品を生産する製造設備の設計・製造を行っています。

この事業活動において、環境への影響を理解し、環境経営を優先課題と認識し、全社員一致団結し「エコアクション21 環境経営システム」を確立し、積極的に運営していきます。

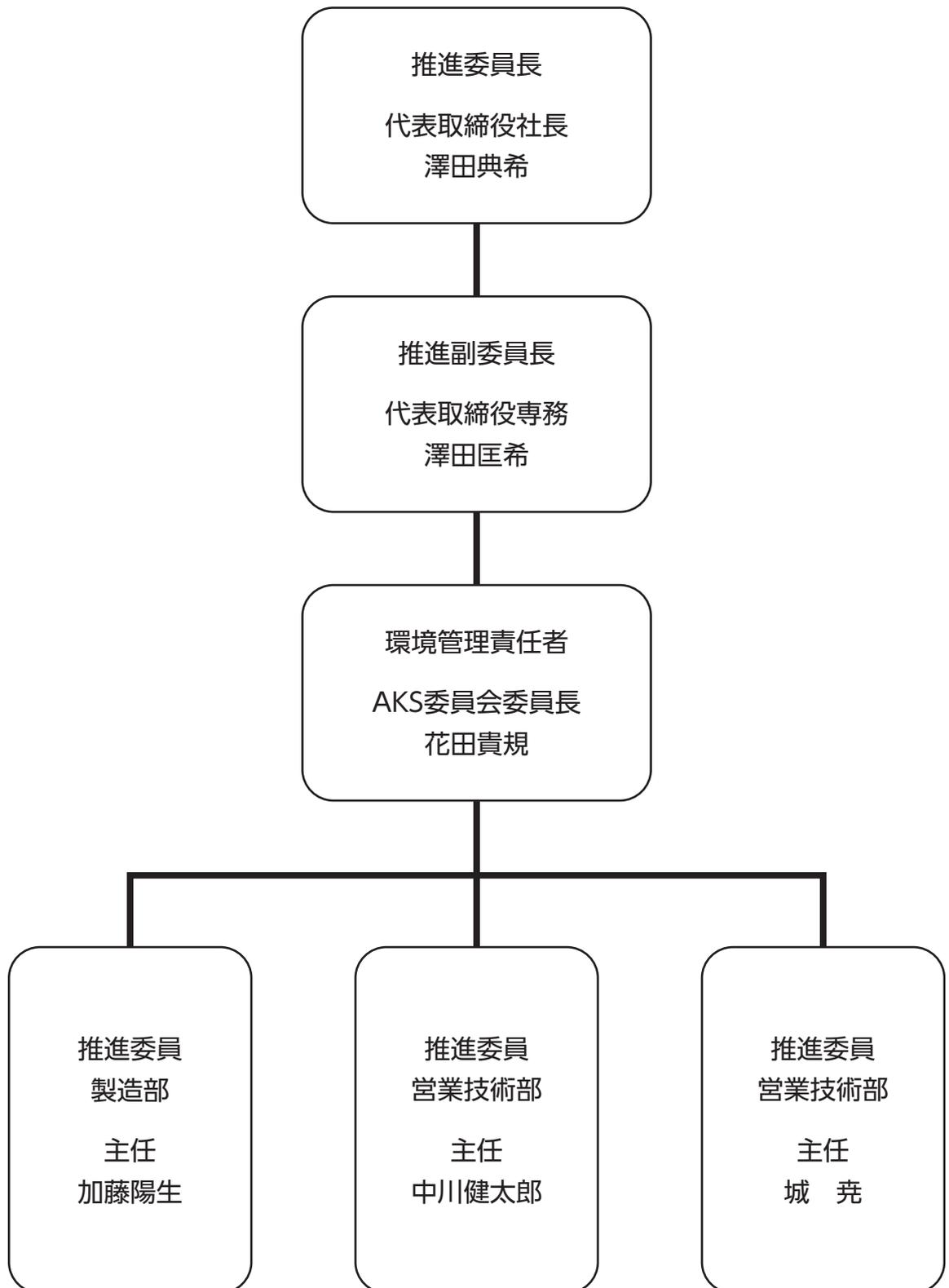
1. 環境関連法規制を順守します。
2. 環境目標を定め、定期的に環境経営システムを見直して、継続的改善と環境汚染の予防に努めます。
3. 環境への悪影響を低減するため、次の事項を実施します。
  1. 地球温暖化防止のため電力及び化石燃料の低減をし、二酸化炭素排出の軽減に努めます。
  2. 事業活動における廃棄物の処理は、分別を積極的に行うことにより、最終処分品を低減します。
  3. 水資源低減のため水道水の仕様を低減します。
  4. 省資源及びグリーン調達を積極的に推進します。
4. この環境方針を全従業員に周知徹底して実施するとともに、一般にも公開します。

制定日 2008年(平成20年)6月29日  
第1回改訂日 2011年(平成23年)1月6日  
第2回改訂日 2014年(平成26年)2月10日

株式会社丸由製作所  
代表取締役社長

澤田典希

## EA21 EMS実施体制





## 役割・責任・権限表

役割	実行担当	責任権限
代表者	代表取締役社長	<ul style="list-style-type: none"><li>・環境方針の作成</li><li>・環境管理責任者の任命</li><li>・代表者見直しの実施</li><li>・資源の準備</li></ul>
副代表者	代表取締役専務	<ul style="list-style-type: none"><li>・社長の責任権限の代行</li></ul>
環境管理責任者	AKS委員会委員長	<ul style="list-style-type: none"><li>・環境マネジメントシステム総責任者</li><li>・環境マネジメントシステム構築・運用・維持</li><li>・代表者への情報の提供</li><li>・全体計画の立案</li></ul>
推進委員	各部署代表	<ul style="list-style-type: none"><li>・EMS実施・運用</li><li>・EMS実施状況確認</li><li>・EMS実施状況記録</li></ul>

## 役割・責任・権限表

環境目標は、2008年度～2011年度の環境負荷の平均実績を基準とし、活動目標を設定した。数値目標は、平均数値から毎年1%削減するとし2012年～2014年の中期目標を設定した。また、グリーン購入と環境配慮製品・生産の推進については2012年度は調査とする。

項目	期間	基準年度 08年～11年度 平均実績	目標値		
			2012年度 削減目標 (1.0%)	2013年度 削減目標 (2.0%)	2014年度 削減目標 (3.0%)
二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO <sub>2</sub> )		92,577	91,651	90,725	89,799
電力使用量の削減 (kwh)		123,058	121,827	120,597	119,366
都市ガス使用量の削減 (m <sup>3</sup> )		85	84	83	82
ガソリン使用量の削減 (ℓ)		15,215	15,062	14,910	14,758
軽油使用量の削減 (ℓ)		1,791	990	980	970
廃棄物排出量の削減 (kg)		1,502	1,487	1,472	1,457
水使用量の削減 (m <sup>3</sup> )		219	217	215	213
グリーン購入の推進		—	調査	品目数3%増	品目数5%増
環境配慮製品・生産の推進 (件数)		101	111 (10%増)	122 (10%増)	134 (10%増)
地域貢献活動		—	毎週2回以上	毎週2回以上	毎週2回以上
有害化学物質の適正管理		—	適正管理	適正管理	適正管理

注意:電力使用量のCO<sub>2</sub>計算は0.474kg-CO<sub>2</sub>/kwhで算出。(中部電力の平成21年度指数)

(\*)廃棄物は、事業系の可燃物と不燃物の合計とする。(産業廃棄物は定期的に発生しない為)

2012年1月6日

佐藤育子

## 環境活動計画

### [1]環境活動の取組期間

2013年1月1日～2013年12月31日

### [2]主な環境活動の内容

#### (1) 二酸化炭素排出量の削減(全社)

二酸化炭素排出量の削減については、電力・都市ガス・化石燃料(ガソリン・軽油)の使用量から算出し合計しているため、それぞれの要素について次の活動を実施した。

##### ①電力使用の削減(全社)

1. スイッチ付近に「節電」または、「未使用時はOFF」の標示を掲示する。  
窓ガラスに遮光フィルムを貼付して断熱効果を向上させ、空調機器の稼働を減らす。
2. 空調機器の冷暖房温度管理。
3. 不使用設備の節電管理。
4. 休憩時の消灯の遵守を朝礼にて徹底。
5. 社内の過剰な照明(蛍光灯)の間引きの徹底。
6. 自動扉と工場入口の間に扉を設置し、冷暖房効果を向上させた。
7. 照明を省エネタイプの蛍光灯に変更した。

##### ②ガス使用量の削減(製造部)

ガスの使用については、生活用で温水器を使用しているため、水使用量の削減と合わせて、使用量の削減を行っている。

1. 現場(工場)の温水器設定温度を38度(設定可能最低温度)とした。

##### ③ガソリン及び軽油使用量の削減(全社)

ガソリン及び軽油の使用については、社用車の運行用に使用しているため、両者を合わせて、削減活動を行っている。

1. 車内の運転席から見える位置に「アイドリングストップ」「急発進しない」の表示をして運転手に啓蒙している。
2. アイドリングストップ、エコドライブの必要性を運転手に周知し、実行している。
3. 遠方に出張する際は、燃費のいい車を使用。  
少人数の場合は、公共交通機関を使用するなど、環境に配慮する。
4. 社用車1台をハイブリッドカーに変更した。



- (2) 廃棄物排出量の削減(全社)
  1. 廃棄物の分別方法を明確にするため「廃棄物管理処理手順」を作成し周知する。
    - ・ 事業系廃棄物(可燃ごみ、不燃ごみ)
    - ・ 産業廃棄物(廃油、金属)
  2. 廃棄物分別手順の掲示と分別の徹底
  
- (3) 水使用量の削減(全社)
  1. 水道蛇口付近に「節水ステッカー」と貼付して啓蒙する
  2. トイレの洗浄水タンクに0.5ℓのペットボトルを沈めて節水
  
- (4) グリーン購入の促進(本部・営業技術部)
  1. 事務用品のグリーン購入
  2. 生産資材のグリーン調達
  
- (5) 環境配慮製品、サービスの促進(本業での活動、全社)
  1. 環境配慮製品の、調査・開発・製造
  2. 製造技術の環境配慮:不良の削減、設計不良低減、品質クレームの削減、不具合クレームの削減
  
- (6) 地域貢献活動等(全社)
  1. 5S(整理、整頓、清潔、清掃、躰)活動の日常的实施
  2. 朝礼後、毎週2回の清掃活動
  
- (7) 有害化学物質の適正管理(全社)
  1. MSDSの整備、施錠可能な棚に保管。

## 環境目標の実績

2008年度～2011年度の実績を基準として、目標を設定し比較した。

項目	目標 基準値	目標率 (%)	2013年度 目標値	活動期間 の結果	目標達成率 (%)	評価
二酸化炭素排出量の 削減(kg-CO <sub>2</sub> )	92,577	-2.0%	90,725	78,636	-13.3%	○
電力使用量の 削減(kwh)	123,058	-2.0%	120,597	119,301	-1.1%	○
都市ガス使用量の 削減(m <sup>3</sup> )	85	-2.0%	83	83	±0%	○
ガソリン使用量の 削減(ℓ)	15,062	-2.0%	14,910	9,045	-39.3%	○
軽油使用量の 削減(ℓ)	990	-2.0%	980	348	-64.5%	○
廃棄物排出量の 削減(kg)	1,487	-2.0%	1,472	2,250	+52.9%	×
水使用量の 削減(m <sup>3</sup> )	217	-2.0%	215	365	+69.8%	×
環境配慮製品・ 生産の推進	101	+20%	122	197	+61.5%	○

注意:電力使用量のCO<sub>2</sub>計算は0.474kg-CO<sub>2</sub>/kwhで算出。(中部電力の平成21年度指数)

### 数値目標以外の取組実績

項目	取組	内容	評価
グリーン購入の促進	実施	・事務用品のグリーン購入品の品目増加	○
地域活動貢献等	実施	・日常的啓蒙教育(5S)の実施 ・朝礼後、毎週2回の清掃活動	○
有害化学物質の 適正管理	実施	・有害化学物質の特定 ・MSDSの整備 ・施錠管理	○

# 環境活動計画の取組結果とその評価

## 次年度の取組内容

### (1) 二酸化炭素排出量

<b>結果</b>	二酸化炭素排出量は、目標を達成。
<b>評価</b>	二酸化炭素排出量は、目標値を大幅に下回っている。
<b>次年度の取組内容</b>	現状のやり方を基にし、全社上げて二酸化炭素排出量削減に取り組んでいく。

#### (1)-1 電力使用量

<b>結果</b>	電力使用量は、目標を達成。
<b>評価</b>	生産量の増加はあったものの、前年度に実施した古いタイプのエアコンの撤去及び、省エネタイプのエアコンへの変更による効果があったものとみられる。
<b>次年度の取組内容</b>	受注生産の為、月ごとに使用量の変動はかなりあるが、こまめな消灯や不必要箇所の照明の間引き等をさらに徹底し、電力使用量を抑制していく。

#### (1)-2 都市ガス使用量

<b>結果</b>	都市ガス使用量は、目標を達成。
<b>評価</b>	都市ガス使用量は、目標値を下回っている。
<b>次年度の取組内容</b>	生活用水として使用しているため、次年度以降は現状の推移を見守っていきたく。

#### (1)-3 化石燃料使用量

<b>結果</b>	化石燃料使用量は、目標を達成。
<b>評価</b>	化石燃料使用量は、目標値を大幅に下回っている。 営業車1台をハイブリッドカーに変更(合計6台)したことにより、ガソリンの使用量は大幅な削減につながった。 実績と目標値はかなり乖離しているため、次年度から目標変更を実施していく。(軽油も同様)
<b>次年度の取組内容</b>	今年度から主要顧客の拠点(本社・工場)移行に伴い、使用量の増加を予想していたが、予想以上の使用量削減が実現できたので、現状の推移を見守り、次年度以降の更なる目標変更を考慮していきたく。

(2) 廃棄物排出量

<b>結果</b>	廃棄物排出量は、目標値よりも大幅に上回った。
<b>評価</b>	主原因としては、会社全体のリフォーム及びレイアウト変更を行ったことによる。この機会を期に、使用頻度の低い在庫・余剰品の整理を行ったため増加となった。 また、生産量の増加に伴う、購入品・部品等の梱包資材・緩衝材による、廃棄物の増加につながったものと考えられる。 来年度以降も、受注が続く為、目標変更を実施していく。
<b>次年度取組内容</b>	リサイクルできるものを仕分けして、今以上の分類作業を実施し、排出量の削減に努めていきたい。

(3) 水使用量

<b>結果</b>	水の使用は、生活用水のみであるが使用量は増加した。
<b>評価</b>	使用量増加の要因は、製品の中に、冷却水(冷却装置)が必要な製品があり、その代替として上水を利用したものと考えられる。 また、社員数も増加しており、使用量は増加している。
<b>次年度取組内容</b>	次年度にも上記と同様の受注があるため、冷却装置等貸出可能であれば検討したい。

(4) グリーン購入

<b>結果</b>	事務用品のグリーン購入品目の増加。
<b>評価</b>	事務用品購入品リストに従って、 今後も購入品目数の増加と製造資材グリーン調達を推進する。
<b>次年度取組内容</b>	全社上げてグリーン購入の周知を徹底していきたい。

(5) 環境配慮製品・生産

<b>結果</b>	生産量197台(+61.5%)へ増加。
<b>評価</b>	弊社主力製品である専用機は、時間短縮・生産性向上等の面で環境配慮製品であると考えている。 さらに今後は、高速画像処理技術を活かした環境配慮製品の研究・開発も推進させていく。
<b>次年度取組内容</b>	現状のやり方を基にし、 全社上げて環境配慮製品の研究・開発を推進させていきたい。

(6) 地域社会貢献活動等

<b>結果</b>	地域社会貢献活動等の取組は、実施できている。
<b>評価</b>	5S(整理、整頓、清潔、清掃、躰)は日常活動として、清掃活動は毎週2回(月・木)の朝礼後に実施し、生産現場での基本的活動として定着している。
<b>次年度取組内容</b>	今後も改善活動とともに、継続実施していく。

(7) 有害化学物質の適正管理

<b>結果</b>	MSDSを整備し、有害化学物質を特定し、施錠付棚に保管の実施。
<b>評価</b>	使用化学物質は主に塗装剤と洗浄液であり、商品名のMSDSを取り寄せ有害化学物質を特定した。 特にPRTR法対象物質に関しては、リストを作成し、鍵付き棚へ保管し、適正管理とした。
<b>次年度取組内容</b>	今後は、使用量・保管量管理を徹底するとともに、PRTR法の該当物質の含まれていない製品を選定使用していく。



## 環境関連法規等とりまとめ／評価結果一覧表

No.	該当法令	該当条文	内容	該当条文	評価
1	騒音規制法	規定で定められている基準を超える騒音を発生させてはならない。	空気圧縮 7.5kwh以上	特定施設設置届書の提出 '06年6月届出済み '09年11月変更届出済み	○
2	振動規制法	規定で定められている基準を超える振動を発生させてはならない。	空気圧縮 7.5kwh以上	特定施設設置届書の提出 '06年6月届出済み '09年11月変更届出済み	○
3	廃棄物の処理及び清掃に関する法	廃棄物の定義： 分類	廃棄物の 適正分別	廃棄物削減取組実施	○
		事業者の責任： 自らの責任で処理	発生廃棄物の再生 利用など減量化に 努める。または減 量化に協力する。 (一般廃棄物も含む)	産業廃棄物の処理が 発生した場合、廃棄物 処理業者と委託契約 を締結	○
		事業者の処理： 保管基準、適正処 理(収集・運搬、処 理業者への委託)		委託契約状況の確認	○
		産業廃棄物管理： 管理表(マニフェ スト)の交付と期 間内処理の確認	マニフェスト発行	産業廃棄物適正管理	○
4	フロン回収 破壊法	特定製品が整備され、 又は廃棄される再の フロン類の適正かつ 確実な回収・破壊され る処置、特定製品に 使用されているフロン 類の排出抑制のため の処置を講ずる。	みだりに特定製品 からフロン類を放 出してはならない。	特定製品が整備でき る業者に委託する。	○
5	(名古屋)市民 の健康と安全 を確保する 環境の保全に 関する条例	自動車を運転する 者は、アイドリング ・ストップを行わな ければならない。	自動車を駐車し、 又は、停車する ときに原動機を停 止させる。	車内で運転席から 見える位置に、アイド リング・ストップと安 全運転啓発の表示を する。	○

## 2013年 代表者による全体評価と見直しの結果

実施事項		実施目標及び実施結果
1	環境関連法規を遵守する	「環境関連法規等とりまとめ/評価一覧表」による
2	使用電力を低減して二酸化炭素の排出を低減する。	
3	化石燃料の使用を減らして二酸化炭素の排出を低減する。	環境目標の達成状況及び環境活動計画の実施状況、その評価結果による。
4	廃棄物は、分別を周知して最終処分を低減する。	
5	水道水の使用を低減する。	
6	グリーン購入の促進を積極的に取り組む。	購入リストを作成。できるだけ項目数を増やす。
7	環境配慮製品、サービスの積極的な推進。	組立案件は環境配慮製品であり、組立案件の受注増を目指す。
8	地域貢献活動の推進。	毎週2回の朝礼後の清掃活動。
9	有害化学物質の低減・適正管理。	MSDSに基づき、リストを作成。施錠可能な棚で適正管理を行う。

経営者は、上記の結果を踏まえて次の項目について変更の必要性を評価して結果を記載する。

環境方針 変更の必要性	環境目標 変更の必要性	環境活動計画 変更の必要性	環境経営システム 変更の必要性
<ul style="list-style-type: none"> <li>・不要</li> <li>・要</li> </ul> コメント：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不要</li> <li>・要</li> </ul> コメント： 現状に沿った形での目標設定が必要です。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不要</li> <li>・要</li> </ul> コメント：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不要</li> <li>・要</li> </ul> コメント：
全体に対して改善指示事項 AKS委員会は全社員が参加しているという意識をさらに向上させ、常に問題意識を持って、コストダウンし、生産性を上げて下さい。			
環境管理責任者としての見解、指示事項 具体的な活動内容を精査し、マンネリ化しない削減方法を実行する必要がある。 (「見える化」して誰が見ても出来るようにする)			